

## 講演（令和6年度農福連携セミナー）

日時：令和6年12月7日（土）12：00～12：30

場所：アバンセホール

### 次 第

○ 動画上映：【佐賀農福連携啓発 DVD】

「佐賀における農福連携の取り組みの様子」

○ 講演

<テーマ>農福連携の現場から

① 演 題：「JA さが大和地区みかん産地の農福連携の取組について」

JA さが 佐城エリア大和事業所（佐賀市）

課長代理 陣内 精太 氏

（講演要旨）

JA さが大和地区は、ミカン生産の組合員数 108 名、ミカン栽培面積 146ha、販売高は 13 億円に上る県内屈指のミカンの産地である。

当地区の農業現場では、高齢化により深刻な労働力不足が生じていたが、近隣に特別支援学校があり、障がい者に対する理解がある地域であったことから、福祉事業所の力を借りて問題解決できないかと考え、平成 30 年から農福連携に取り組んでいる。

依頼している作業内容としては、ミカン園では、主にミカン収穫カゴの交換と収穫作業をお願いしており、今期で 6 年目となっている。

また、選果場では、平成 30 年度よりデコポンのセンサー選果作業をお願いしており、令和元年からは取組事業所が 4 事業所に増加。更にすももパック詰め作業なども新たに追加して依頼している。

このように人手不足で遅れがちだった作業や、農家が交代で行っていた作業を委託でき、農家は非常に助かっている。

② 演 題：「就労継続支援 B 型の仕事と農福連携」

多機能型支援センターそら（鹿島市）

職業指導員 荒瀬 純子 氏

（講演要旨）

当事業所では就労継続支援 B 型をはじめ、児童発達支援、放課後等デイサービスなど事業を多角的に行っている。

就労継続支援 B 型は現在 17 名の利用者とともに、カフェやランドリーの事業を中心に施設外就労の一つとして農福連携も行っている。

今年は白石町イチゴ農家さんの子苗ポットの土入れ作業を行った。

作業を開始するに当たり、支援員で作業場所の下見を行い、作業内容が利用者に適当であるか、時間的に余裕をもってできるかなど事業所としていろいろな角度から検討した。

その結果、農家の方と契約書及び覚書を締結し、作業を開始したが、この作業は誰でも自分のペースで作業することができ、また、外活動なので解放された気分になれるなどにより、利用者からは好評であった。

また、「イチゴ」の褒美も嬉しかった。